



大阪府
堺市消防局



地域防災力の要となる 「大学生」をターゲットとした 消防広報の取組

事例類型 IV他団体との連携／VI広報活動

取組期間 平成 28 年 9 月から

背景

「市内の大学に通う大学生」が地域防災力の要となれば、自主防災組織や消防協力事業所とともに本市にとって大きな力となる。

当消防局では大学生を対象に災害防除に係る知識と技術を身に付けてもらい、昼間の市外への流出人口（15歳以上の通勤・通学者数）が流入人口（前述と同じ）を大きく上回っているという本市の特徴を踏まえ、昼間の地域防災力の空白をカバーしてもらうことを目的として、大学生をターゲットとした消防広報手法について、大学生とともに共同して研究を行った。

内容

これまで、消防防災に関して、大学生を対象とした広報活動や教育などは実施しておらず、そのニーズも把握できていなかった。そこで、従前より取り組んでいる次の5つの消防広報活動について、管内にある大阪府立大学の副専攻科目「地域活動演習」の協力を得て、大学生の視点で分析を行ってもらうこととした。

- ① 救命講習を実際に受講し、使用教材や講師の教え方について分析する。
- ② 消防音楽隊が行っている小学生への予防広報「音楽鑑賞と防災のおはなし」を見学し、どのような内容をどのように伝えているかを分析する。
- ③ 消防署見学を通じて、普段は見えない・知られていないが、市民が知ることで安心につながる業務を分析する。
- ④ 中学校で自衛消防訓練指導を実施する際に、併せて中学生に対して行っている防災教育の見学を通じて、警防課員・予防課員それぞれの指導内容や伝え方を分析する。
- ⑤ 当局で作成している機関紙やSNS等の広報媒体について、取り上げている内容や表現方法を分析する。

これらの分析により、当局が実施する広報効果の現状を把握するとともに、課題の抽出を行った。

また、消防防災への接点が少ないと考えられる大学生世代に興味を持ってもらう具体的な方策について検討し、「地域活動演習 最終発表会」（大学主催・当局予防部長外各評価委員が出席）の場において発表を行った。

成果

1. 大学生の特徴

大学生と議論を進める中で、大学生の特徴として次の4点が浮き上がってきた。

- ① 1人での行動を嫌う（友達と一緒にであれば行動しやすい）
- ② 敷居が高いと感じるものは避ける（「消防」は敷居が高いと感じている）
- ③ 興味のあるものが比較的限られている
（興味があるもののキーワード：「SNS・アルバイト（お金）・就職活動（就活）・出会い」）
- ④ 興味のあるものの中に無理のない範囲で「伝えたい要素」を取り入れると受け入れやすい

2. 大学生を交えての検討

以上の特徴を踏まえ、消防防災への関心を高めるための具体的な方策として、以下の3点について検討を行った。

(1) SNSを活用した身近で親しみやすい雰囲気作り

「堺市消防局 facebook タッチー」について、「誰に何を伝えたいのかが分からない」「取り上げられている内容が消防の基礎知識がないと読みづらく、分かりにくい」等の意見が出された。

消防がより身近に感じられる広報の例として、実際に働いている消防士を取り上げ、あまり知られていない24時間勤務の様子や仕事にまつわる様々なエピソードを取り上げることなどが提案された。

(2) 消防インターンシップの導入

消防インターンシップが大学における単位として認定されれば、学生にとって大きなメリットとなり、消防防災について学習する動機づけになる。また、インターンシップの中で普通救命講習の資格を取得することにより就活でのPRのひとつになるという意見が出された。

これについては、普段見ることのない施設や装備、日常業務や各種訓練の見学及び体験を通じて、消防に対するイメージ向上や就職先候補としての宣伝効果が期待できる。

また、事業所に対する自衛消防訓練指導を大学生が見学したり、避難者等として実際に参加したりすることで、商業施設等の従業員の防火管理責任や火災発生時の任務を把握することができる。例えば、大学生のアルバイト先の店舗において、消火設備や避難経路の確認、避難施設の維持管理等、具体的な行動が期待され、ひいては、地域全体の防火意識の高揚にまで展開することが期待できる。

(3) 学園祭や新入生を対象としたイベントでの消防要素の取り入れ

各種イベントにおいて消防要素を取り入れる際には、消防防災への興味を持つきっかけを作ることを重視し、無理のない範囲で参加できるメニューにするなどの工夫が必要である。

また、各種イベントの実行委員メンバーに事前にメニューを体験してもらうことで、主催者として安全なイベント運営はもちろんのこと、イベンターとしての「発信力」にも大いに期待できる。

3. まとめ

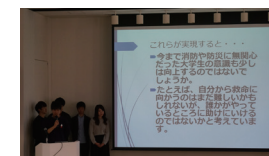
このように、具体的に実行可能な提案がなされ、実現すれば大学側も消防側も両方にメリットがある内容となった。

本取組を共に行った大学生にヒアリングを行ったところ、「自分たちが普段利用している施設でも自然と消防用設備等の設置状況や避難経路を確認するようになった」「誰かが救命処置を実施していたら、手伝える自信がついた」「自分が住む共同住宅の防火戸の前に物が置いてあったので、避難障害とならない場所に移動させた」という声があり、本取組の効果がうかがえる。

●消防署見学



●地域活動演習発表会



●中学校消防訓練見学



選考委員のコメント

市内の大学に通う大学生を対象にした消防広報手法を具体化するもので、火災予防の市民への普及・啓発として、着眼点が良いと感じた。本取組による今後の成果が期待される。